

本日ここに、中核市移行記念式典を開催するにあたり、ごあいさつを申し上げます。

ご来賓各位をはじめ、新年度初日のお忙しい中、また、日曜日にも関わらず、大変多くの皆さまのご臨席をいただき、誠にありがとうございます。

本日、中核市「鳥取市」が誕生し、新たな第一歩を踏み出すこととなりました。都市制度改革を含む「地方自治法」の一部改正がなされた直後の平成二十六年六月に中核市移行を目指すことを表明して以来、本日来賓としてご出席いただいております、総務省の海老原市町村課長様、平井鳥取県知事、石破衆議院議員、舞立参議院議員、青木参議院議員（代理の前田秘書）、県議会議員の皆さま、市議会議員の皆さま、そして鳥取県をはじめ関係者の皆さまに、大変なご理解とご協力をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

鳥取市は、山陰東部圏域の発展の要として、将来にわたり全国にその存在感を示すとともに、中核市としての権限を新たに有し、自立性の高い自治体経営を行うことが求められています。少子高齢化・人口減少社会の進行、地域経済疲弊など直面する諸課題に立ち向かい、市民の皆さまに、住んで良かった、これからも住み続けたいと実感していただくためには、中核市への移行を何としても成し遂げる必要があるとの固い信念で取り組み、本日、中核市誕生が実現いたしました。

本市の歴史においては、明治二十二年に、全国で三十六番目の市として誕生して以来、周辺町村との合併を通じて、政治、経済、教育、文化の拠点として着実な発展を遂げ、平成十六年の市町村合併、平成十七年の特例市移行に続いて、中核市移行は本市の大きな転機であり、新たなスタートであります。鳥取県から中核市に関する事務権限が市へ移譲となり、この権限を最大限に活用して、中核市『鳥取市』としてサービスの維持・向上と、これまで以上に地域の実情に応じた施策の展開に努め、しっかりその責務を果たしていきたいと考えております。

中核市となった本市が、今後も大きく、力強く発展していくため、市民の皆さま、並びに、本日ご出席いただきました皆さまにおかれましては、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます、私からの式辞といたします。

本日は、誠にありがとうございます。

平成30年4月1日

鳥取市長 深澤義彦